

Paclitaxel は抗癌薬として臨床使用されており、細胞分裂に必要な微小管脱重合を阻害し細胞増殖抑制作用、特に平滑筋細胞増殖を抑制することで再狭窄を予防する。

Paclitaxel-eluting stent(TAXUS)は Express ステントをプラットフォームに、Paclitaxel を非生体吸収性ポリマーに混入させている。

TAXUS ~ での臨床試験

TAXUS では SR(slow release)で 2.3%、MR(moderate release)で 4.7%の再狭窄率とその有用性が示された。

TAXUS (TAXUS 662 人、BMS 652 人)では

9ヶ月間の TLR 3.0%(vs 11.3%)、TVR 4.7%(vs 12.0%)、MACE 8.5%(vs 15.0%)、TVF 7.6%(vs 14.4%)と TAXUS 群は BMS 群と比較して有意に減少していた。

また糖尿病の有無にかかわらず、TAXUS 群では BMS 群と比較して TLR の頻度は低かった。

血管径(<2.5, 2.5 ~ 3.0, >3.0 mm)、病変長(<10, 10-20, >20 mm)の比較でも著明な減少を認めており、糖尿病患者・細小血管や長枝病変でも使用できることがわかった。

今後ステント血栓症の発生頻度、長期成績を含む臨床試験の結果など注視する点である。